



東北大学、岩手大学、小野工業所(福島市、小野晃良社長)、後関製作所(東京都葛飾区、後関亮作社長)は、地方自治体が管理する既設橋梁の床版打ち替え向けにプレキャストRC床版を共同研究している。研究は、昭和30年代から40年代の道路橋示方書で設計された橋梁用床版について、老朽化対策工法の1つと

開発した床版のモデル

して開発している。古い床版の打ち替え時には、床版厚が増加することで死荷重が増えることが課題となっている。この床版は、継手に使用する異形鉄筋の継手頭部の形を工夫し、かぶり厚を最小にする。また頭部の加工を溶接ではなく鍛造で加工することで、機械的な性質も緻密にする。

往復2車線の地方道などは、高規格道路と違い、床版

打ち替え時でも通行止めが難しいため、1車線ごとに分割施工できる工夫も研究している。橋軸直角方向の主鉄筋方向継手と、橋軸方向の配力鉄筋継手の構造を変えて、かぶりが最小になるようにする。

小野工業所では「今後の土木は、維持管理が主体になってくる。地域の建設会社が設計できるRC床版とすることで、地方道の維持管理を地域で担えるようにしたい」と話している。

床版は、東北大が全体計画や事業評価、岩手大がプレキャスト床版モデルの試験や評価、小野工業所が継手の構造計画や現場実装、後関製作所が鉄筋の製造設計や量産化などをそれぞれ担当している。

地方道
既設橋梁

打替えにRC床版

地域建設業も設計可能

東北大、岩手大、小野工業所、後関製作所